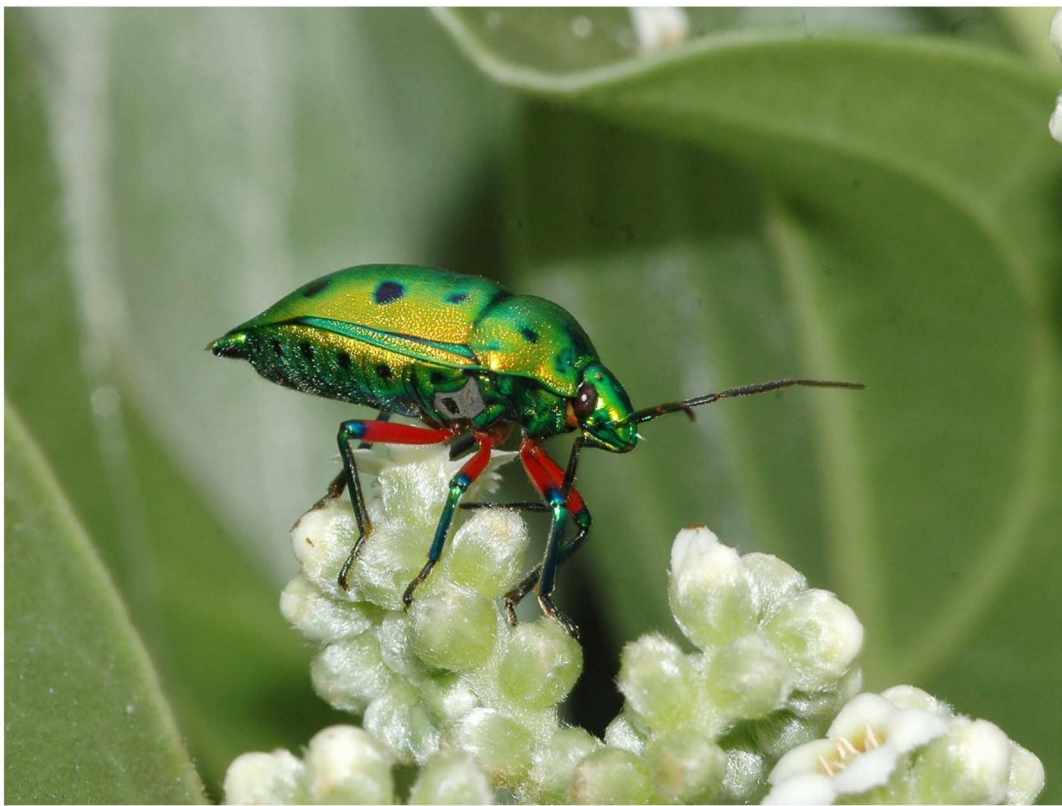


遺稿集

Part III 「虫の粹」



藤井 醇

まえがき

信州へ移り住んでから既に18年目になります。

ここに収めた作品の全ては、その17年間に撮ったものですから、殆どはデジカメの作品になります。

昆虫の生態写真は、ある程度の説明が必要で、冊子にしても作品展でも説明を添えましたが、今回は思い切って説明を殆ど省きました。

そして、説明不要の、昆虫たちの美の世界に浸って頂きこうと、美しさ最優先で編みました。

改めて昆虫の世界の美しさをアピールし皆様と昆虫の距離を縮めて頂くというのが、ひとつの大きな狙いです。

昆虫の種類は皆さんが想像しておられる数をはるかに越えると思います。専門家の間でもその数はまちまちで地球上で100万種～300万種といった幅があります。つまり正確にはわかっておらず、推定でしかないのです。この種類数からいうと私が撮った作品などは、ほんの一部の一部に過ぎませんが、それでもとても載せきれるものではありません。

かなり厳しく選んでも、一部が選ばれる程度です。それでも小さくて、普段皆さんの目から、こぼれてしまったような小さなものも勿論、登場してもらおうようピックアップしたつもりです。

構成は大まかに、チョウ、甲虫、カメムシ、といった具合に分類し、蝶のように登場数が多いものは更に、アゲハ・タテハ・シジミ・というように細分類し、数ページずつにまとめてあります。

殆ど説明文はなくし、種名と撮影地のみを記しました

ひたすら虫たちの美しさをご鑑賞下さい。

編集、レイアウト、印刷、製本、装丁、全て私一人の手作業で制作いたしました。

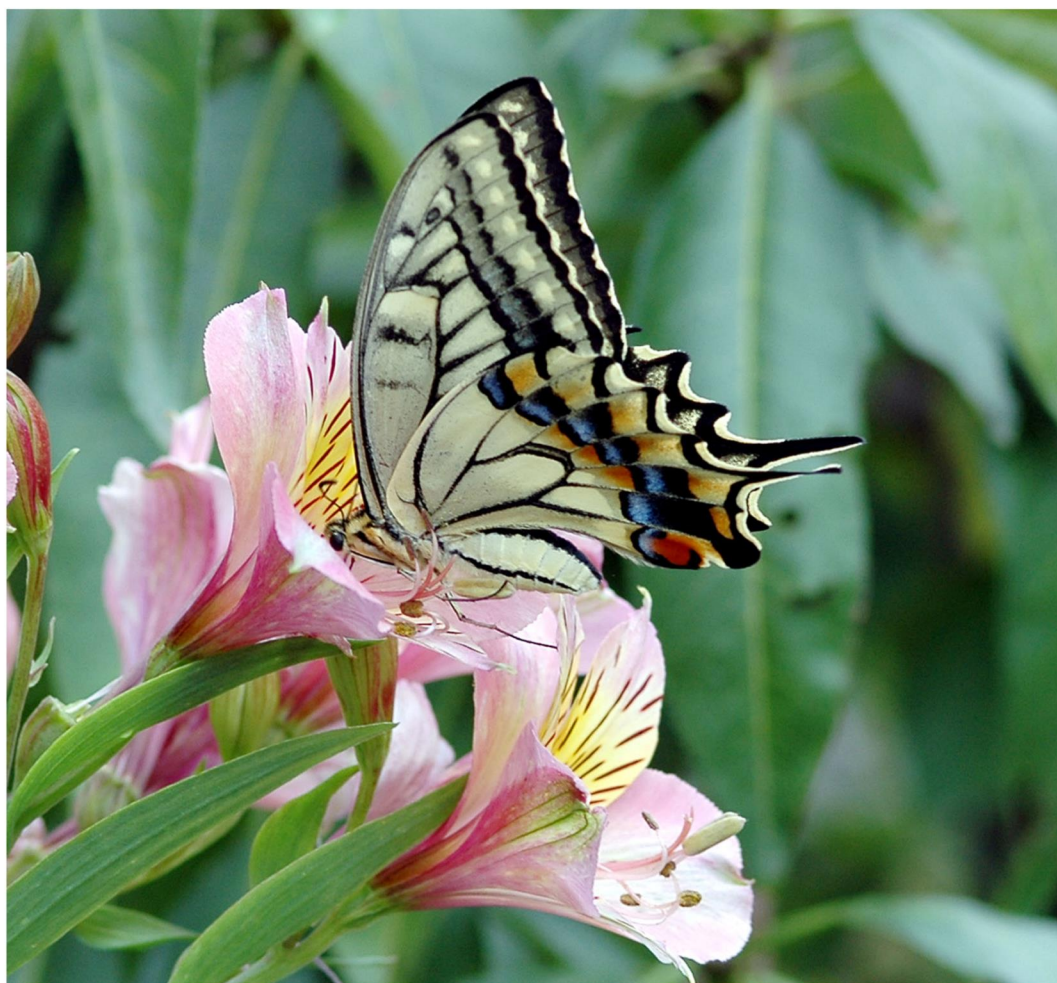
こんな事がすべて自分だけで可能な、よき時代に生まれた事を喜んでおります

アゲハの仲間

日本に蝶はおよそ300余種、この数は小さな国にしては大変多い。
そして殆どの蝶は美しく、大型の種から小型の種までバラエティー
に富み多くの人に好まれ、愛好者も多い。

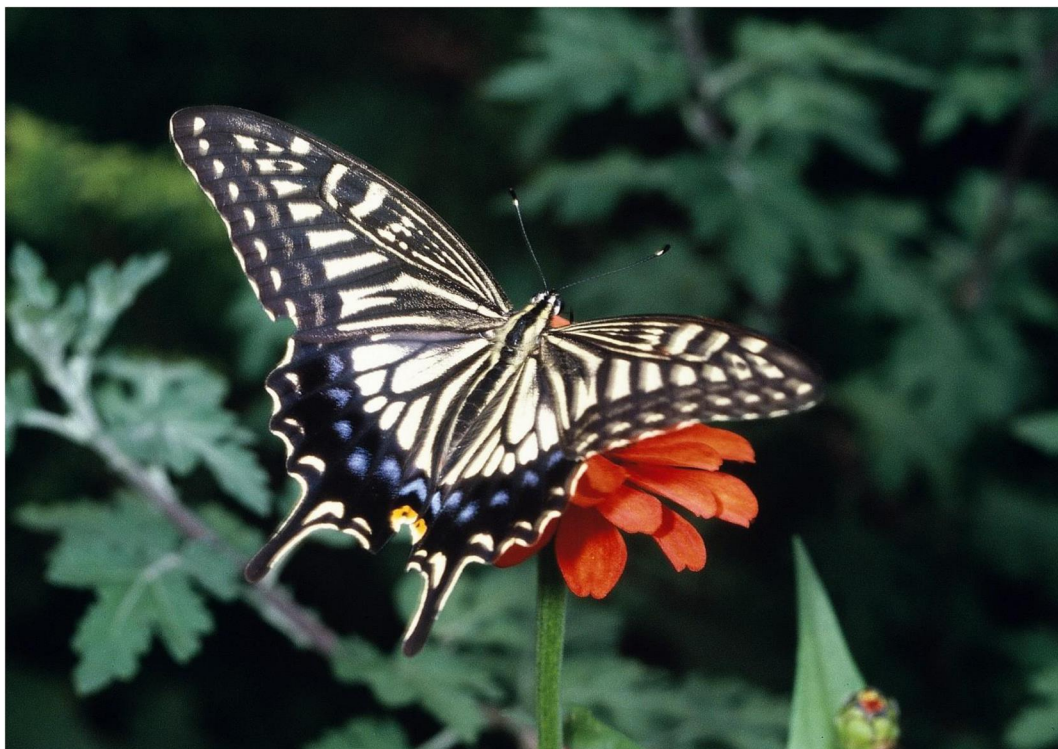
約300種の蝶のうちアゲハは50種ほどいます。

しかし、最近はかなり個体数が減ってしまい、昔たくさん見かけた
ジャコウアゲハ、オナガアゲハは大変少なく、カラスアゲハ、ミヤ
マカラスアゲハなども少なくなってきました。残念な事です。



キアゲハ

富士見高原



ナミアゲハ

長野市



ウスバシロチョウ (ウスバアゲハ)

長野冠着山麓



ミヤマカラスアゲハ

戸隠



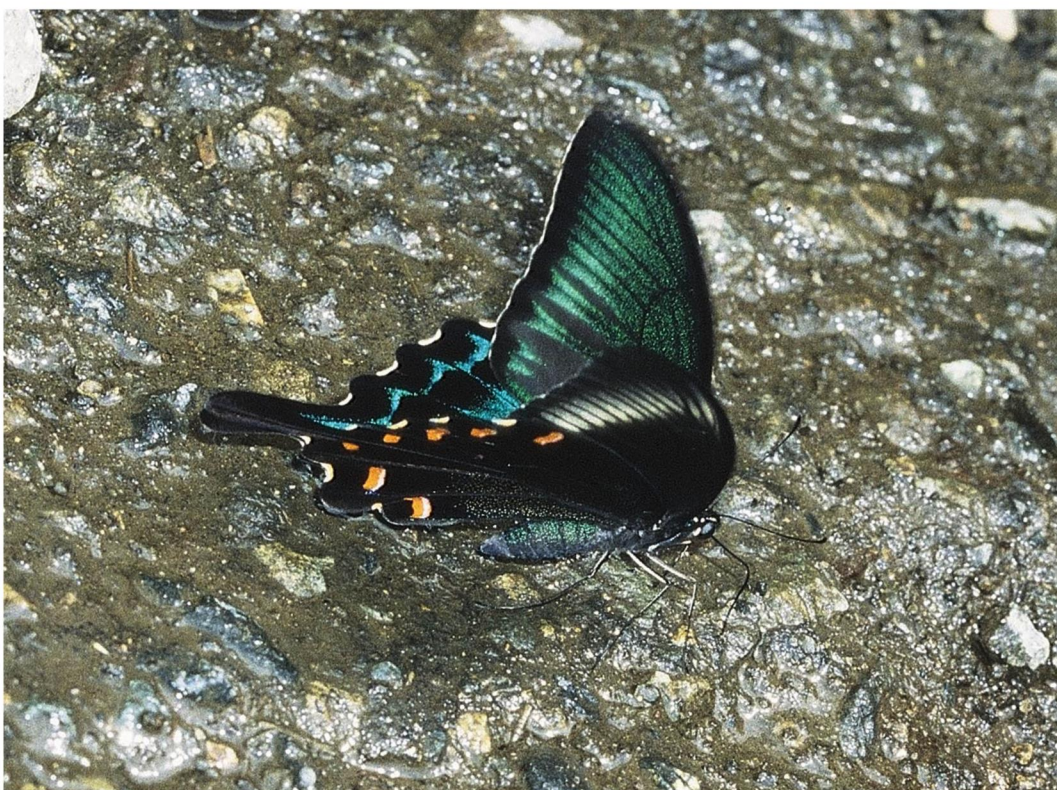
オナガアゲハ

聖高原



ベニモンアゲハ

沖縄 八重山



カラスアゲハ吸水

千曲市倉科

シジミチョウの仲間

シジミチョウのグループは50種ほどの大きなグループで、殆どの種が小さいが色彩は美しく、花の上での動きはバレリーナを見るようで、見飽きることがない。

翅を立てて止まる事が多く翅表を見せる事が少ないが、裏の方が柄、紋様が繊細で美しい。



オオルリシジミ

東御市



ツバメシジミ

千曲市羽尾



ミヤマシジミ

信州新町



アマミウラナミシジミ

竹富島



ムラサキシジミ

千曲市倉科



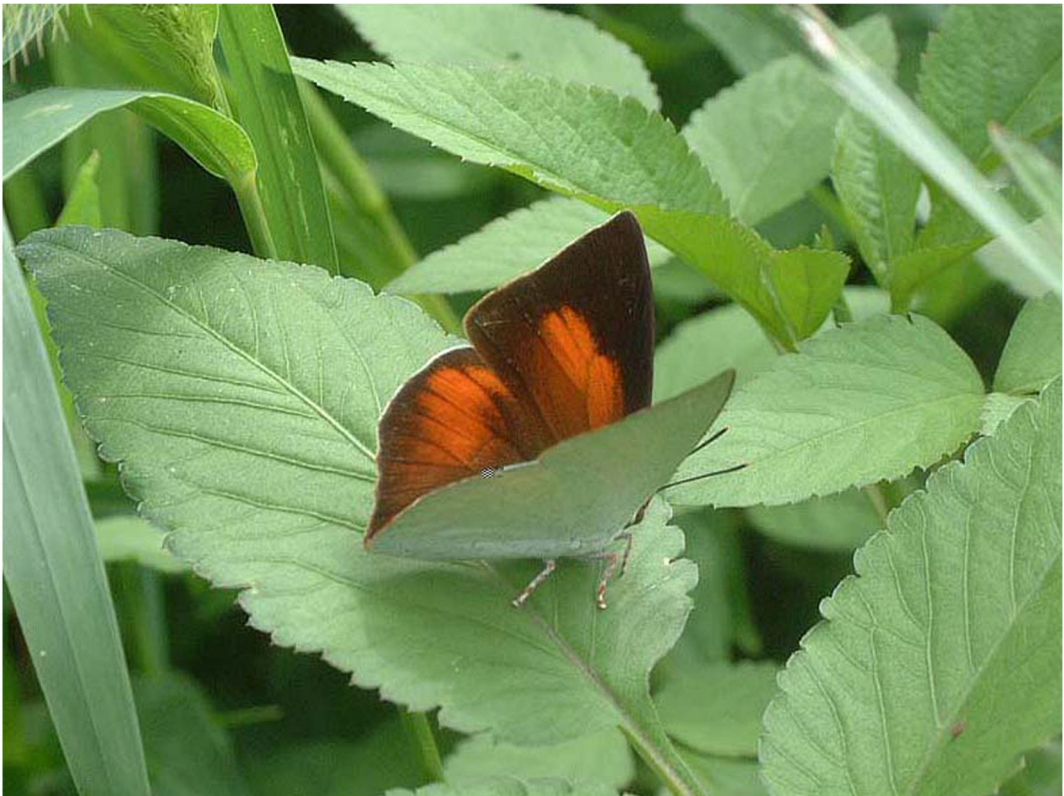
トラフシジミ

長野県北部



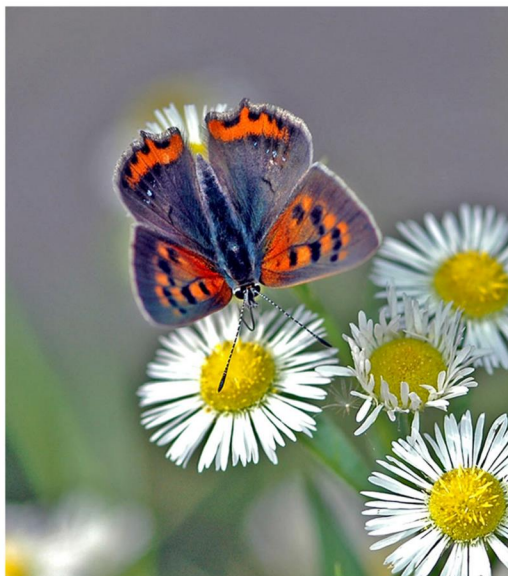
ウラナミアカシジミ

千曲市 倉科



ウラギンシジミ

碓氷峠



春から秋まで花上で
華麗なバレーを見せる
ベニシジミ



ベニシジミ
コレクション



シロチョウの仲間

モンシロチョウに代表される仲間で文字通り白い蝶が多く色彩的にさみしいが、冴えた黄色で羽先がシャープに尖ったヤマキチョウ、羽の先だけ目の覚めるような紅色のツマベニチョウ（次頁）は、アゲハチョウ並みのお大きさに美しい。下のヒメシロチョウは局部的な発生で個体数も少なく、地域によっては絶滅、或いは絶滅危惧種になっている。



スジボソヤマキチョウ

信州新町



ヒメシロチョウ

信州飯綱山麓



ツマベニチョウ

沖縄今帰仁



モンキチョウ

信州新町



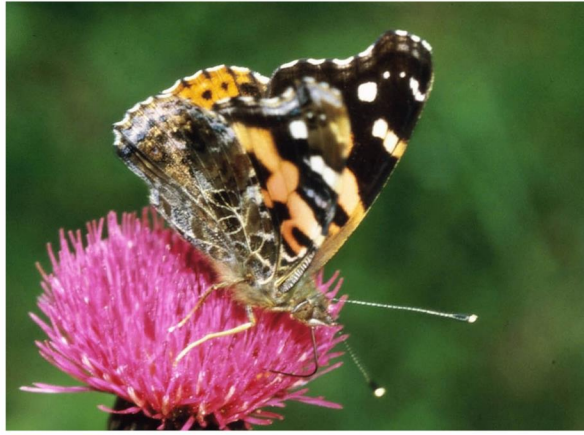
スジグロチョウ

千曲市里山



キチョウ

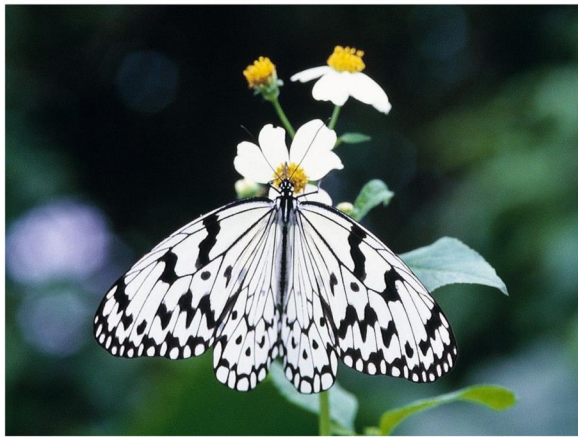
千曲市里山



アカタテハ

タテハチョウの仲間、他

タテハ・ヒョウモン・ジャノメチョウ・マダラチョウまで、ひとまとめにして、華やかに登場してもらいました。



オオゴマダラ



ミドリヒョウモン



クロヒカゲ



クジャクチョウ

長野県富士見高原



キタテハ

千曲市大田原



イシガキチョウ

沖縄八重山



アオタテハモドキ

沖縄八重山



エルタテハ

信州山田温泉



スミナガシ

千曲市倉科

タテハモドキ

八重山



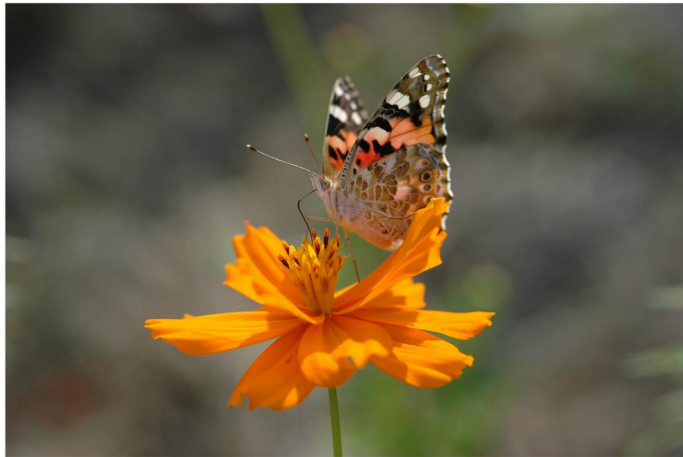
サカハチチヨウ

千曲市倉科



ヒメアカタテハ

川中島



シータテハ

信州新町





オオムラサキ

信州新町



ゴマダラチョウ産卵

信州新町



ツマグロヒョウモン羽化（オス）

川中島



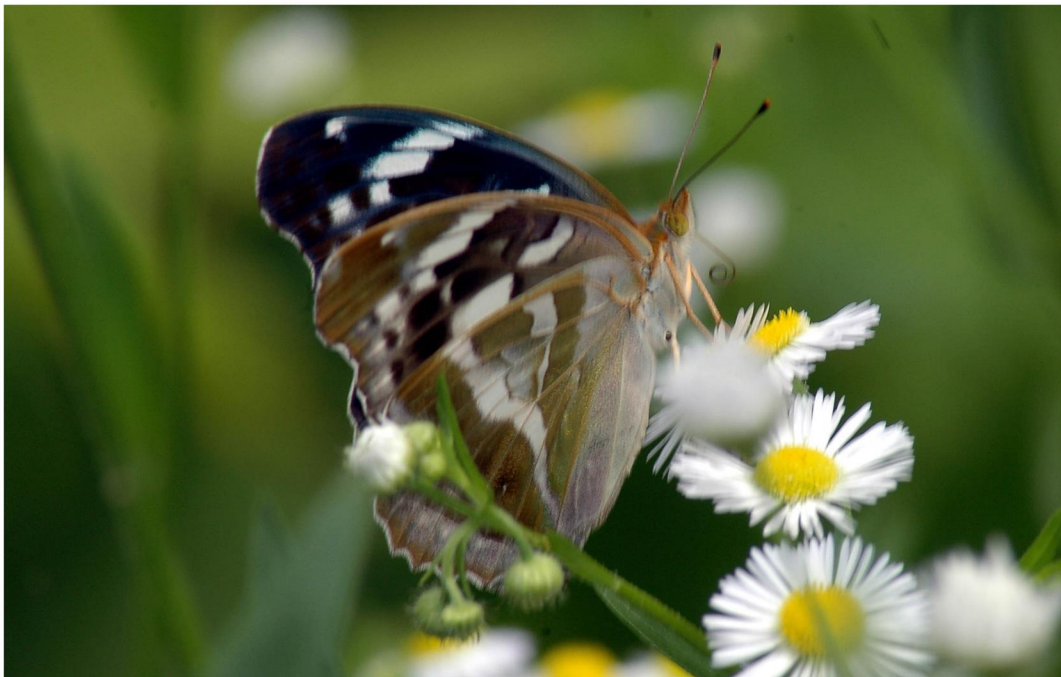
花上のツマグロヒョウモン（メス）

東京多摩



ミドリヒョウモン（裏）

長野県富士見高原



メスグロヒョウモン

千曲市 森



オオゴマダラ

沖縄今帰仁



スジグロカバマダラ

西表島



アサギマダラ

長野県富士見高原



リュウキュウアサギマダラ

西表島



ヒメウラナミジャノメ

冠着山麓



ヒメキマダラヒカゲ

富士見高原



ヒメジャノメ

冠着山麓

蛾の仲間

日本の蛾と蝶を包括する「鱗翅目」は全てで5000余種であるが、そのうち、蝶は僅か300余種でしかないから、チョウは昼間活動する蛾の、一グループと言い代えても間違いではない。

つまり鱗粉目の90%以上が『蛾』ということになる。

殆どの大型の蛾は、チョウより胴体が太く、鱗粉も多く、夜灯りに集まり鱗粉を振りまくので嫌われるようだが中には、オオミズアオのような美しい色彩の蛾もいる。（下の写真）

中に数種鱗分に毒を持つ種がいるために恐れられているが、皮膚に触れれば痒くなる程度であって、恐れるほどの毒ではない。

好き嫌いは別として、5000種の中には、蝶に優るとも劣らぬ美しい種も少なからずいます。私は『蛾』の画像で美しいものは、それほど撮ってはいません。

そんな中から、一部を小さく扱いましたので、嫌わずにご覧下さい。

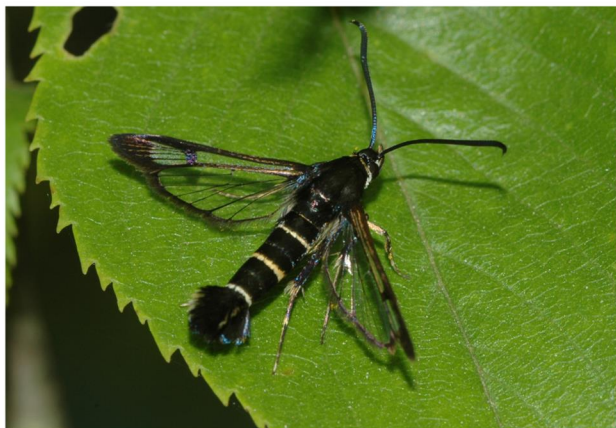
勿論、次の二頁飛ばして頂いてもけっこうです。

こうして改めて見ると美しい蛾の多くは昼間活動するものたちである。



オオミズアオ

川中島



上から

トラガ
コスカシバ
イカリモンガ
クロミスジシロエダシヤク





サツマニシキ

台中



ルリチラシの一種

台中

トンボの仲間

日本には200種類ものトンボが生息している。

こんな小さな国土で200種ものトンボがいるということは稀有な事である。それは、とりもなおさず、昔から『水』が豊かな国であったということである。そして国土は寒冷地から亜熱帯まで長く連なっていて、気候が変化に富んでいる事にも起因する。



飛翔するサナエトンボ

聖高原



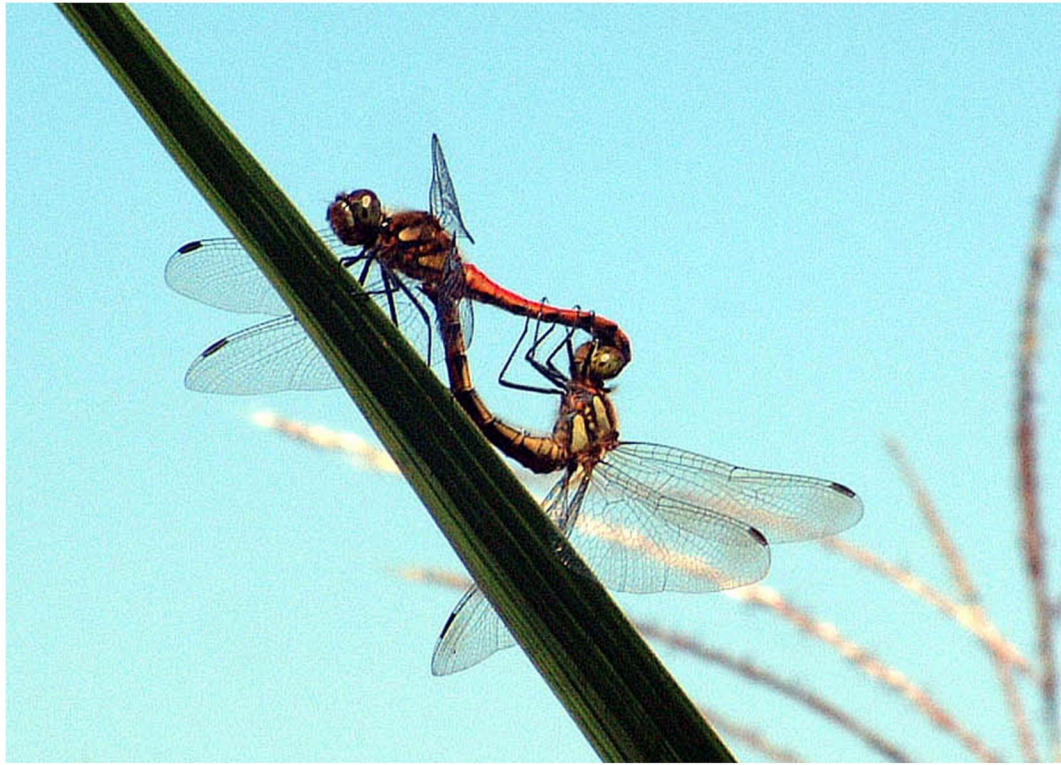
コシアキトンボ

長野市川中島



ショウジョウトンボ

長野市川中島



アキアカネ

冠着山麓



ネキトンボ

冠着山麓



オニヤンマ

北長野替佐



ギンヤンマ産卵

千曲市



コナカハグロトンボ

西表島



ハグロトンボ

川中島今井



ミヤマカワトンボ

信州飯綱山麓



カワトンボ

千曲市羽尾

甲虫の仲間

甲虫は正式には鞘翅目のことで、5000種を超える大変大きなグループで、更に細かく分類されている。しかし、なじみの無い名前も多く、ここではあまり厳密に細分類せず、大まかに分ける程度にとどめた。例えば、なじみのあるテントウムシ・コガネムシ・ハムシなど、それぞれを頁になるべくまとめるようにした。下の写真のハンミョウは5-6種仲間がいるが本種だけが抜きん出て美しく、他は登場できないので、代表頁に本種のみで、登場させた。

甲虫は宝石のように美しい種が多く、且つ体色は死んでからもあまり変化しないのでコレクターも多い。

宝石箱のような、甲虫の世界をお楽しみ下さい。



ハンミョウ

冠着山麓

イタドリハムシ

千曲市羽尾



リュウキュウイチモンジハムシ

西表島



ジンガサハムシ

冠着山麓



セモンジンガサハムシ

冠着山麓





オオトラフコガネ

戸隠興社



スシコガネ

南志賀 山田牧場



マメコガネ

川中島八幡原



ヤツボシツツハムシ

冠着山麓

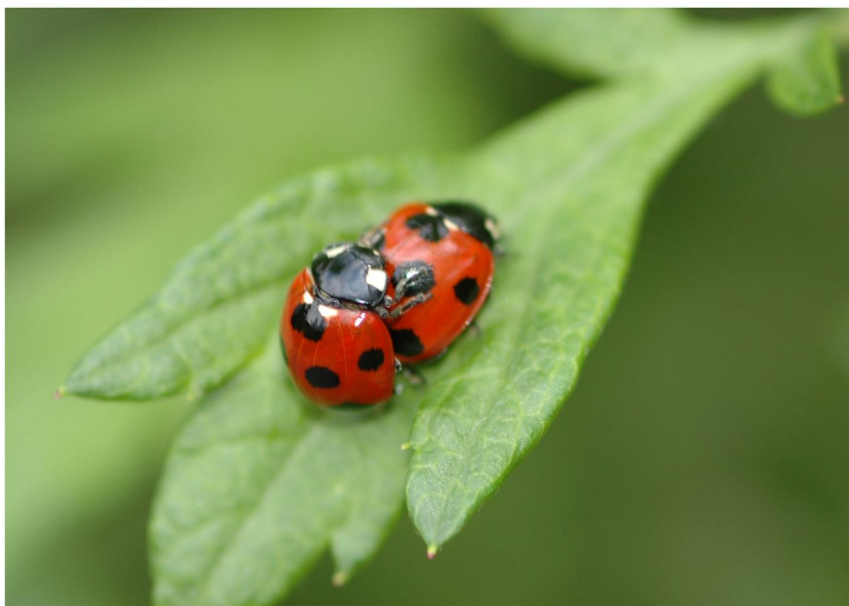


ジュウシホシクビナガハムシ

信州中野

ナナホシテントウ交尾

川中島



カメノコテントウ

千曲市倉科



ナミテントウ

川中島





ベニカミキリ

冠着山麓



キイロトラカミキリ

冠着山麓



ルリボシカミキリ

千曲市倉科



ヒメコブオトシブミ

川中島



ルイスアシナガオトシブミ 揺籃つくり

松代



アオムネスジタマムシ

沖縄八重山



アオカミキリモドキ

川中島

登場でき グループの



アシブトハナアブ



カゲロウの一種



ハサミムシの一種(台湾)



ミツバチ

蝶・甲虫・トンボ・カメムシ
など、大きなグループからの
登場ばかりで、小さなものは
登場のチャンスが少ないので
ここでまとめて、
ハチ・アブ・カゲロウ・シリ
アゲ・ツノトンボ・ハサミム
シ・ヨコバイ・セミ・など、

なかった 虫たち

皆様がふだんあまり関心の持てない本当に小さな世界の仲間達から、一種ずつ登場してもらいました。こんな機会によくみてやってください。

下のセミは体長が12ミリ～17ミリほどの世界最小のセミです。



オオヨコバイ



シリアゲの一種



イワサキクサゼミ (西表島)



キバネツノトンボ

カメムシノ仲間

昆虫界の、綺麗どころの最後のグループの登場になってしまった。
いずれのグループも、美しい色彩、形の者ばかりで甲乙付けがたい。
しかし、改めて、このような編集作業をしてみると、カメムシのグループ
が、最もカラフルで、光沢もあり、形も個性的で、臭い事など全く忘れ
てしまった。

カメムシといえばその悪臭だけが直ぐ話題になってしまうが、数多の
昆虫の中で社会生活を営む、蟻・蜂以外で子どもを護る習性がみら
れるのは、このカメムシの中の数種だけである。

つい、弁護したくなってしまった。



ジュウジナガカメムシ

信州冠着山麓



ナナホシキンカメムシ

西表島



クロジュウジカメムシ

沖縄 本部半島



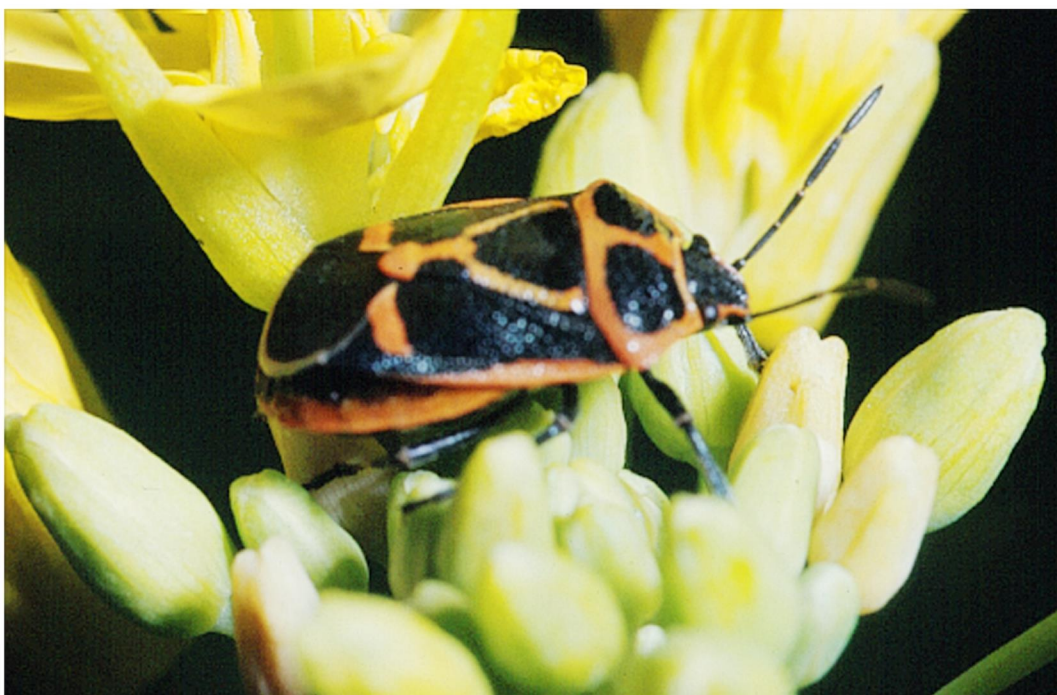
エザキモンキツノカメムシ

長野市川中島



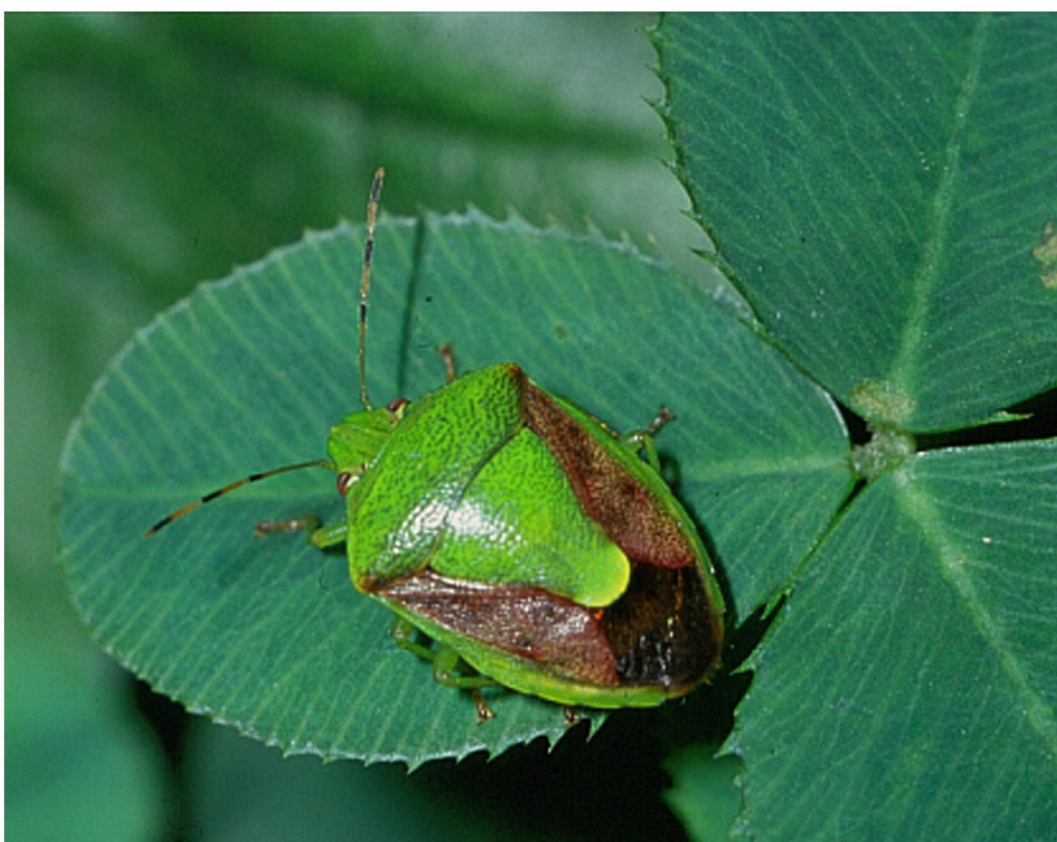
アカシマサシガメ

千曲市羽根尾



ナガメ

長野市川中島



チャバネアオカメムシ

長野市川中島



ツノアオカメムシ

冠着山麓



アカスジキンカメムシ

富士見高原



アカホシカメムシ

八重山 竹富島



アカギカメムシ

八重山 西表島

遺稿集PartⅢ 虫の粹

エディションNO

発行日 2013年6月1日

制作・発行アトリエ・フジイ

藤井 醇 プロフィール

1933年東京生まれ。生まれつきの虫好き。疎開で10歳から23歳まで自然豊かな信州で育ち、虫好きは更に高じ、親の心配、反対をよそに、その道を探る。上京、「豊島園昆虫館」に仕事をし、8年間「昆虫に仕える」その間に必要に迫られ、昆虫の写真を撮るようになり、徐々に写真へと、スライド。新聞に掲載された一点の作品がさる出版社社長の眼にとまり、バックアップを受け、それを機に写真家として独立。

以来40有余年、昆虫の生態写真を撮り続けている。

10年前（1996年）再び信州へ。信州で若き友人を得、薦めでデジカメに切り替え、パソコンを教わり、使いこなせるようになり、長年撮り貯めた作品をデジタル化、保存など、人生の終局に向けて整理しつつ、冬季はパソコンで、昆虫、花、鳥などの絵を描いて楽しみ、「パソコン絵師」と自称している。

著書

「昆虫」 講談社ブルーバックスシリーズ

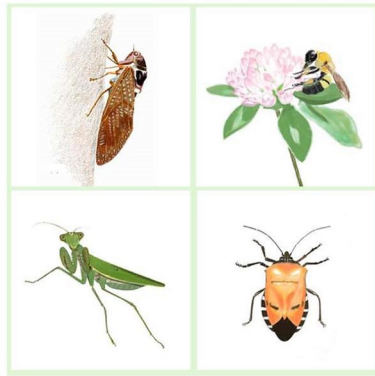
「ちょうちょ」「こうちゅう」「せみ・ばった・とんぼ」フレーベル館

「昆虫の観察と飼育」「昆虫と遊ぼう」他 黎明書房

「ふゆの虫」 福音館（科学絵本）

「みんなのせかい」 NHK出版

「ありとちょう」 鈴木出版 他多数



パソコン画 A.fujii